

2017年(平成29年)

第116号

(8月1日)

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会  
 発行責任者：渉外部長 田中規之  
 編集委員長：渉外広報 植田恭司  
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230  
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

## 滋賀教会・奈良教会・京都教会壮年部交流法座 ～サンガで研鑽し合う～

7月9日、京都教会において滋賀教会・奈良教会・京都教会壮年部交流法座が行われ、3教会で64名の参加がありました。一部前泊者による朝6時のご供養や、全員集合後の9時、12時の聖壇お役者も混成チームで行い、交流を深めました。

9時のご供養後は京都教会近郊の散策に出掛け、京都の壮年部員自らがガイドを行いました。みふき亭、栗田神社、知恩院、八坂神社、白川を約1時間かけて歩くコースで、ひと時京都の風情を味わいました。教会に戻ってから京都教会建設記録DVDを拝見し、管理主任さんから施設説明がありました。

午後からは家庭教育受講中の京都教会の星さんから「男性のための家庭教育」という研修がありました。研修の中で、「壮年の役割は母親や奥さんが日常の経済的な苦しみを受けないように、そして精神的にも安定できるように務めること」と話されました。そして「このような環境で育った子供は心豊かな思いやりのある子に育つ」と述べ、「また家庭教育は感化の教育である」とし、親が身をもって示していくことの大切さを強調されました。

その後の気づきの発表では、嫌がらせを受け家の中で怒りだした長男だったが、帰宅途中に他人や物にあたっていればどうなっていたか分からず、家の中であたってくれて良かったと受け取れるようになってきたと吐露され、今後長男に寄り添っていきたいと話され



ました。また手取りや宿直などの課題が共有できたとし、若い人が育たないのは壮年自身が育っていないからだと自らの精進を話されるなど、4人の方が発表されました。

最後に佐藤教会長より「法華七諭はすべて父親が子供を教化している。しっかりと子供とふれて、育てられるのは父親です。慈雲尊者の『やってみせ 言うて聞かせて させてみて ほめてやらねば 人はできぬぞ』の言葉は、父親がやって見せることが大切で、このことは壮年部員さんとの関わりにも当てはまる」と話し、9月の「近畿ダーナ大聖堂参拝」に向けての精進を促しました。



句が詠まれた山形県の「山寺(立石寺)」は、天台座主慈覚大師よって建立されました▼伝教大師が灯し比叡山より分けられた法灯を一千百数十年の間護られてきました。織田信長に焼討で延暦寺の法灯が消えた際、立石寺から分けたといわれています▼その延暦寺で、宗教サミット三十周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」が行われます。当日は、千年以上いのちをつないできた、山のセミも一緒に祈りを込めて鳴くことですよ。

時事刻々  
 朝起きて、まず耳に入るのが、セミの声。夏だなぁと感じるも多いことですよ。しかし、日中のセミの声を聞くと、余計に暑さを感じるという人もいます。▼聞き耳をたてると、いろいろなセミが鳴き声に時期の移ろいを感じます。ニーニイセミ、アブラゼミではじまり、ミンミンゼミで山場、クマゼミからツクツクボウシで、そろそろ終わりがかな▼セミの声といえば、「閑さや岩にしみ入る蝉の声」―松尾芭蕉の句が有名です。この

## 今月のことば ～「見えないはたらきに気づく」～ 青年男子部 大川浩市

8月を担当させていただきます、右京支部青年男子部の大川浩市です。宜しくお願いします。

今月の会長先生のご法話は「見えないはたらきに気づく」です。「気づく」ということですから、「見えないはたらき」が私たちのまわりにあるということをも題名からも教えて頂いています。

今月は会長先生からのクイズから始まります。「空気が心・ご縁」の3つに共通することは？という問題です。答えは「実際に触れること、見ることもできないものでありながら、私たちが生きる上で欠かせないもの」でした。心・ご縁は、親の恩や先祖の徳、家族の思いやりや友達の気遣いとも言えるでしょう。つい感謝を忘れてしまいがちな、「目には見えない大切なもの」ばかりです。

目には見えない大切なものを見られるよう、気づけるようになるにはどうしたら良いのでしょうか？そのきっかけは信仰だと教えてもらっています。私達はすぐ、目の前に見えている事柄や姿で判断してしまいます。

昨年、私は仕事で2人の方を怒らせてしまいました。原因は重要な仕事を任せてもらう中で調子に乗ってしまっていた私にありました。今も心を入れ換えて信頼を取り戻すべく頑張っています。

1名の方とはありがたいことに仕事をまた任せてもらえるようになり、元通りではないですが、楽しく仕事ができるようになってきました。ただもう一人の方はまだまだ厳しい言葉を頂きます。片方の方に許してもらえてくると、最初の謙虚な気持ちが、「なぜこの人は許してくれないのだろうか」という不満な気持ちになりそうになっていました。

そんな時、ある方に話を聞いてもらって、こんな言葉を頂きました。「その許してくれない方がいるから、また調子に乗らないように気を付けられていらっしゃるやね。その人にも心から合掌できたらいいね」と言ってくらいただき、ハッとしました。

私にとってその人は自分を律してくれる、ありがたい存在なのだ気づけると、また見る目が変わっていききました。その方を怒らせた理由は、その方の仕事の仕方を否定していたことがご本人の耳に入ってしまったことでした。

その方の立場で会社のために頑張ってもらって、そのことを全く考えず、目の前に見える発言や姿だけを見て、否定をしていたのです。

相手がどんなことを考えて、どんな思いで、どんなことをしているかは目には見えません。それを「責める気持ちで見ると」「相手から何を教えてもらっているか」と見るかで、その後の結果と影響がガラッと変わってしまいます。後者の見方が信仰の観方だと思えます。勝手にしんどく感じていた相手との関わりも、見方を変えてみると相手の方の方がしんどい気持ちになっていたのではないかと見えました。

すると何とかしたいという気持ちが出てきましたし、その方と私は「会社を良くしたい」という同じ気持ちを持っていることに気づき、心の距離が近くなりましたし、ありがたいと感じられるようになってきました。素直にそう思えると、最近はこちらから声かけができるようになり、自分から関わっていきけるようになってきました。

仕事だけではなく、家庭や、教会での活動の中でも、嫌なことや逃げたいこと、向き合いたくないことがたくさんありますが、素直に教えに沿ってやってみる、感じてみるとその中にある仏さまからのメッセージに気づくことができるということ、それが幸せになる一番の早道だと会長先生から教えて頂きました。

今月は、生活の中にある「見えないはたらき」を意識して、「当たり前」のことには感謝の気持ちを持ち、自分にとって都合の良いことには、素直に精進する中で、その中にある仏さまからのメッセージを探していきたいと思えます。ありがとうございました。

合掌

## 支部壮年交流会 ～中央支部・宇治支部が法座所に集う～

7月2日、宇治支部法座所において中央支部・宇治支部壮年交流会が行われ17名の壮年部員が参加しました。

第1部式典はご供養、川崎壮年部長の挨拶、田中渉外部長の研修と法座が行われ、川崎壮年部長は挨拶の中で、「法座所は宇治支部のためだけにあるのではなく、京都の会員さんのためがあるので活用して頂きたい」と話されました。

「また私たちは『ご法』という共通の繋がりが、会社ではあり得ないもので、お互い学ぶ仲間として高

まっていきたい」と抱負を述べられました。

また、田中渉外部長の研修では、開祖さまの「一乗説法」のDVDを拝見した後、4月に亡くなられたお母さんの信仰姿勢に学んだ体験を披露し、「子孫のために大盤石のレールを引くことの大切さと、人さまに教えをお伝えすることが、自分の家が救われる近道」と述べ、「9月の壮年団参に、多くの皆さんと共に行かせて頂きたい」と手取りの精進を誓いました。

第2部懇親会では、昼食を取りながら自己紹介をするなど、交流を深めました。

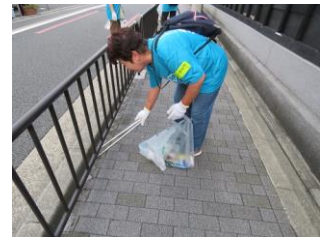


### 祇園祭を陰ひなたで支える ～ごみゼロ大作戦・曳き手ボランティア～

7月15、16日の宵々・宵山に、「明るい社会づくり運動 京都連絡協議会」は、京都市が主催する「祇園祭ごみゼロ大作戦 2017」に賛同し、延べ48名の会員が参加しました。

所属する「美しい祇園祭をつくる会」本部に集結後、2～3名が組んでトングとゴミ袋を持ち、歩行者天国で賑わう烏丸通をはじめ周辺道路に移動してゴミ拾い・もらい歩きをしました。回収したゴミは固定ゴミステーションのゴミ箱に受け渡ししながら、きれいな祇園祭の運営の一役を担いました。

10年に亘る延べ2千余名のボランティア活動の結果、最近は全国のモデルとなるきれいな祭りとなっています。



浄妙山



役行者山

7月24日、八坂神社の祭礼である祇園祭の後祭(あとまつり)において、京都教会青年部と新宗連青年部が浄妙山と役行者山の曳き手となり、ボランティアを行いました。両青年部が混成しながら2つの山を担当することで交流を深めることが出来ました。

祇園祭は貞観11年(869)に始まったとされ、昭和41年(1966)に前祭・後祭の合同巡行になりましたが、平成26年(2014)に前祭・後祭の巡行が復活しました。

### かめおか宗教懇話会公開シンポジウム ～宗教協力から世界平和を～

7月15日、大本本部のみろく会館にてかめおか宗教懇話会公開シンポジウムが行われ、加盟団体の会員をはじめ京都教会の会員や市民約120名が参加しました。またシンポジウムの開催前には同会総会も行われ、1年間の活動総括や今後の活動予定などが可決されました。

今回の公開シンポジウムはテーマを「宗教協力から世界平和を」～比叡山宗教サミットから30年～とし、8月3、4日に行われる同サミットに向け、宗教を生かした世界平和のあり方を考えました。

同会会長の宝積玄承師、延暦寺長騰(ちょうろう)の山田能裕師、天理大学長の永尾教昭師がパネラーとして意見を交わしました。宝積師は世界中の宗教者と

山田師は第1回の宗教サミットは日本国内よりも海外が注目していたと述懐。30周年を迎えるにあたり「グローバルな視点に立ち、相手の宗教を認め、違いを乗り越え、一つになることが求められている」と話されました。永尾師は天理教ヨーロッパ出張所所長を25年間赴任していた経験から「テロはキリスト文明圏とイスラム文明圏のぶつかり合いのように見えるがそうではなく、格差や差別への憤りが原因である」とし礼儀を重んじる日本人の精神性や日本宗教が世界の行司になれるのではないかとその役割に期待されました。

最後に同会の佐藤益弘副会長が8月3、4日のサミット直前にこのようにお話しを賜れたことはありがたかったと感謝の意を述べ閉会しました。



対話してきたことを踏まえ、「国家や民族、文化などを巡って争いを繰り返すが『和』の精神を養うことが重要」と述べました。



# 法華經にみる平和の教え 『法華經の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

庭野開祖の平和への取り組みは、国内の宗教協力活動から、国際的な規模に発展していきます。今回は、最初の国際平和活動となった核兵器禁止宗教者使節団の活動に至る経過について見てまいります。（編集部）

宗教協力の機運はしたいに高まり、新宗連も、設立当初は「宗教の単一性を忘れた節操のない者のやることだ。そのうち空中分解するだろう」などと冷眼視されていましたが、空中分解どころか、共鳴者は年々に増えて昭和47年現在で86教団という大組織になり、仲良く活動しています。

その新宗連は、設立の翌年には日本宗教連盟（日宗連）に加盟しました。それ以来、全日本仏教会・教派神道連合会・日本キリスト教会連合会・神社本庁・新宗連の代表者が日宗連の理事長を輪番でつとめることになりました。

新宗連の日宗連への加盟は、既成宗教が、“新興宗教”を異端視し、反感を持っていた当時としては画期的なことでしたが、現在では、もはやそんな空気はほとんど見られなくなり、よく融和と協力の実を上げています。「すべては一つになる」という歴史的必然が、きわめて徐々ながら確実に実現しつつあると思うのです。

世界的にながめてみても、そのとおりです。ジュネーブに本部のあるW・C・C（キリスト教の世界宗教教会協議会）などは、なかでも最も活発な動きをしており、前カンタベリー大司教のフィッシャー氏は、キリスト教を一つにしようというのでバチカンに飛び、「新教と旧教は手を握ろう」という運動をされました。

また、キプロス共和国のマカリオス大統領、オランダに本部のあるIARF（国際自由宗教連盟）のデナ・グリーリー博士、バチカンのジョン・ライト枢機卿など、世界には同じな考えを根底にお持ちの方々がたくさんおられます。わたしは、いろいろな因縁でそうした方々にお目にかかり、腹を割って話し合う機会を、たびたび持ちうるようになりました。

初めて訪れた大きな機会が、38年秋に渡欧した際でした。その使節団は、宗教者の立場から全面的核兵

器禁止を広く世界に訴えようとしたもので、原水禁運動が、これに参加する人々のイデオロギーや政治的立場の違いによる対立のために低迷している状態にあきたらず、それらの立場を超え、一丸となってその運動の先頭に立つことが時代に生きる宗教者の最大の責務である、との自覚から生まれたものでした。とくに、わたしが心を引かれたのは、この使節団の使命の一つに、東西の宗教家が手を携えて平和のために立ち上がることを呼びかけようと意図していることでした。

キリスト教の松下正寿（まさとし）氏（当時：立教大学総長）を団長、仏教の高階瓊仙（たかしなろうせん）老師を名誉団長とする一行16名は、まずローマへ飛び、バチカンでローマ教皇パウロ6世にお目にかかり、「平和提唱」の原文と英訳分を教皇に手渡しました。

これに対して教皇は、次のように答えられました。「核兵器を禁止し、世界の平和を実現するという高い理想を掲げて、遠路わざわざおいでになったみなさまに対し、深い敬意と感謝の念を表します。わたしは、みなさまの平和提唱に対し、全面的に賛成いたします。

核兵器は人類の生存を脅かす恐ろしい武器です。われわれ宗教家は、核兵器を全廃し、人類を戦争の危険から救うべき努力する責任があります。みなさんの平和提唱は、きわめて適切に人類の願いを表明するもので、わたしはこれに対し、真剣に考慮することをお約束いたします。

わたしは政治や経済に尽くす力を持っていません。わたしのなしうることは、人の心によびかけることでもあります。わたしは、みなさまの平和提唱が実現されるよう努力するとともに、みなさま方は宗教家が、今後いっそう平和への正しい努力を続けられますよう切望いたします」

（次回につづく）

8～9月の主な教会行事		●メッセージ
8月1日(火)	9:00～ 朔日参り	<p>京都教会では毎月4日の開祖さまご命日式典中に法華經勉強会を実施しています。7月4日は如来神力品第二十一でした。この品では「未来教一」といい、未来においてあらゆる宗教が一つの目的に向かって大同団結することが説かれてあります。8月の宗教サミットはまさに法華經を具現化された姿だと感じました。このサミット発足にあたり、多くの先人達の努力があったに違いありません。また毎年、開催されている比叡山をはじめとする関係者の方々には頭が下がる思いです。私たちは後世に引き継いでいく努力が必要です。</p>
4日(金)	9:00～ 開祖さまご命日	
10日(木)	9:00～ 脇祖さまご命日	
15日(火)	9:00～ 戦争犠牲者慰霊平和祈願の日 釈迦牟尼仏ご命日	
9月1日(金)	9:00～ 朔日参り	
4日(月)	9:00～ 開祖さまご命日	
10日(日)	9:00～ 脇祖さま報恩会	
15日(金)	9:00～ 釈迦牟尼仏ご命日	
23日(土)	9:00～ 秋季彼岸会	